

週刊南米

年一月五日
清東麒麟
GOTO & CIA
Caxias 526 - São Paulo

ひとり生のままである
え思はず感激の涙でこの原
稿紙を温した。實に日本民
衆として皇室に對する至誠
の美しさは到底舌の言ふやうな
事ではないが、同時に
われらは在伯同胞社會に於
ける尊皇愛國心の甚だ稱薄
の意に向つて最敬禮を爲し
たる處に於て内外人の感
動は前史に舌でも噛んで
ゐる。日本にして日本語
精神教育を無視し日本語
の價値を輕んずるやうな
事は前史に舌でも噛んで
ゐる。日本にして日本語
精神教育を無視し日本語
の價値を輕んずるやうな
事は前史に舌でも噛んで
ゐる。

上、つて四級グーロ品以
下の種段を支拂はれる場合
もあるのである。

東京へ雪辱飛行
者による現地の島
ノ採収並にテレードに於
ては日光の直射を出來るだけ
来る廿五日から卅日までに
ルアージュ飛行場を出発東
洋へ向けて雪辱飛行する事に
なつた。

キン湯に不時着
輪來再

しむべきである。

近時我が麒麟界に標準化

した「量より質」へ生産者が

激情能はざるところであ

るに過ぎない。

が、いま、上記山口御附

中止げ、默々としてお召車出

外國人から話は忽ち列

此の有機を見て痛く感生

しに停車場の役員(無職

にされ「今後は何時だ

るが、いま、上記山口御附

の筆執つて居る筆者は

間違の價値を輕んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

寒村の一驟に殿下をお出迎

めに、馬鹿の如き道路では

ある。日本にして日本語

精神教育を無視し日本語

の價値を軽んずるやうな

事は前史に舌でも噛んで

ゐる。

武官の談を聞いて讀者は如

何に感じられるか、酷寒零

度二十度の深夜にはるゝ

